

佐竹 音次郎の

児童福祉先駆者に学ぶ

青木 浩

キリスト教徒としての音次郎の考え方

- 明治35年受洗(39歳)
- 他人を思いやる・弱者への思い
- 根底にあったもの

自分自身少年時代に不遇で育った
少年時代から社会に役立つ仕事をしたい

坂本竜馬のように因襲にとらわれない
林夫人から貰った聖書 神の愛・隣人愛

- 聖書 山上の垂訓の影響
- 指針 受けるより、与える者は幸いなり
最もよき人は、他人のために働く人なり
最も強き人は、常に他人を助ける人なり

後藤新平

人のお世話にならならぬよう 人のお世話をするよう
そして報いを求めぬよう
金を残すのは下・事業を残すのは中・人を残すのは上

佐竹音次郎の実践

■ 基本的考え方

キリスト教精神 愛の精神・奉仕の精神
他人の子どもも我が子の如く育てる
私有財産を持たない
後継者には世襲させない
公的援助には頼らない
理事長は置かず、理事及び理事補とした

■ 日常の実践

早朝の冷水浴
礼拝
聖書の拝読
書画の寄贈を受け慈善頒布会を各地で開催
台湾、満州、朝鮮に支部を設ける
未婚の母子など親子を分離することなく預かった

石井十次・留岡幸助と佐竹音次郎

- 石井十次の考え方
公的機関が代わって孤児院を運営する
- 留岡幸助の考え方
三能主義… よき働き、よく食べ、よく眠る
家庭学校の設立… 東京、北海道… 映画「大地の詩」
- 佐竹音次郎の考え方
孤児院をなくす
小規模保育院を各地に設置
- ・ 内務省救児事業関係者の会合
岡山と鎌倉の論戦
ただ三者の共通点は… クリストチャン
石井十次・留岡幸助共に18歳 で洗礼を受ける
佐竹音次郎と石井十次は共に医師

高知慈善協会と鎌倉保育園

- 明治40年ごろ高知慈善協会の北村浩理事と会っている
岡上菊榮とは不明
- 西園長と高知慈善協会
引き揚げ後、農協に勤務後「五台山母子寮」寮長就任
事務局長 大野武夫に勧められ博愛園へ
- 高知慈善協会の運営窮地
博愛園・愛仁園・なでしこ寮(母子寮)はまゆう学園等
- 佐竹昇理事長の英断
音次郎分骨の折、西園長から移管を相談
宮村正明(幡多信用金庫理事長)の仲立ち
- 西園長と鎌倉の関係

法人独立まで

- 昭和57年佐竹信一理事長からの相談と提案
 - 1 このまま鎌倉保育園の支部として継続するのか
 - 2 県内の他の法人と合併するのか
 - 3 法人として独立するのか
- 中村支部としての選択
 - 広井康延中村支部長との協議で独立を決断
 - ・ 厚生省、神奈川県及び高知県の煩雑な手続き
 - ・ 中村支部財産全てが譲渡され法人独立の基盤が整った
 - ・ 社会福祉法人「栄光会」として発足
- 定款の基本的精神「敬神愛人」
 - 中村栄光教会 内田 汎牧師が命名

佐竹音次郎に学ぶことから子どもの社会的 養護を考える

■ 施設養護の理念

子どもを主人公として考えているか(基本)

親、世間から信頼されているか (評価)

しつかりとした、個々の在り方 (信念)

目標を掲げ、向上意欲を持っているか

(個々の資質)

指導と支援の認識

(学びと育ち)

社会的養護をすすめるために

音次郎の理念をどのようにして具現化し今の施設養護をすすめるために

- 養護形態の分散小規模化
 - 地域分散ファミリーホーム
 - 夫婦住み込み型ホーム
- 専門職として
 - 専門教育を受けられる養成機関の設置
 - ソーシャルワーカーの役割重視 サービスを提供する専門制度
 - スーパーバイザー・ファミリーワーカー・カウンセラー・心理療法士・
 - ライフワーカー
- 福祉従事者の勤務の在り方
 - 勤務のグローバル化 長期勤務・長期休暇(リフレッシュ休暇)
- 福祉職労働基準法の策定
 - 一般労基法とは馴染まない
- 福祉職の待遇改善
 - 大幅な給与(待遇)改善をし、安心して就業できる環境を整える

佐竹音次郎の足跡を後世に伝えるために

- 1 散逸している資料の収集と保管
- 2 社会福祉従事者への認識
- 3 児童福祉の功績者として列挙
全国・高知県・四万十市
- 4 佐竹音次郎基金の創設
- 5 「佐竹音次郎」章制定
児童福祉貢献者の表彰
児童福祉研究者の発掘

※ 個人的な考えです

子どもの幸せは、すべての幸せに通じる。